

令和7年度東京都データ連携・活用促進プロジェクト  
令和6年度採択事業者 事業実施報告書

<豊島区におけるウェルビーイングデータ等を活用した  
地域コミュニティ施設の価値向上事業>

令和7年3月

<豊島区>

改版履歴

#	日付	内容	実施者
1	2026/2/27	初版	豊島区

## 目次

エグゼクティブサマリ.....	1
1. はじめに.....	2
1.1 本事業の背景と目的.....	2
1.2 エリアの課題.....	3
1.3 実施体制.....	4
2. 目指す姿.....	6
2.1 エリアが目指す未来.....	6
2.2 ロードマップ.....	7
2.3 KPI.....	8
3. 本事業の位置づけ.....	10
3.1 エリア全体の取組の中での位置づけ.....	10
3.2 サービス・技術の位置づけ.....	11
4. 取組内容.....	13
4.1 取組内容の詳細.....	13
4.2 実装サービスの詳細.....	22
4.3 取組の工夫.....	24
5. 取組結果.....	25
5.1 都民が得られた効果.....	25
6. 横展開の可能性.....	27
6.1 マネタイズするために必要な要素.....	27
6.2 横展開できるエリアの特徴.....	28
7. 今後の予定.....	29

## エグゼクティブサマリ

豊島区では、2005 年度から全世代が利用可能な地域コミュニティ・防災などの拠点施設として、「区民ひろば」を運営している。区民ひろばを開設する以前は、高齢者や児童向けの支援施設をそれぞれ運営していたが、財政上の課題が顕在化したことから、2005 年度よりモデル事業を開始し、それぞれの機能を集約化し、段階的に統合を行うことで、現在では、22 地区 26 施設を区内の小学校区ごとに配置し、運営を行っている。

区民ひろばは、地域の多様な活動や世代を超えた交流を促進するとともに、区民主体の自主活動を促進することで地域コミュニティの活性化に寄与することを目的としている。高齢者の健康・福祉の増進や区民・地域の交流、子育て支援、自主活動の支援を主要な事業とし、施設に応じて、地域住民によって設立された NPO 法人に業務委託をすることによる自主運営を行うなど、地域活動の母体となっている。しかしながら、利用が高齢者や児童などが中心となり、中間層の利用が少ないことから、世代間の交流が生まれにくく、また、運営の画一化などの課題が生じており、地域コミュニティの拠点としての運営の在り方を見直す必要が生じている。

そこで、令和 6 年度より「地域区民ひろば在り方検討委員会」を設置し、コロナ禍を経て、時代に即した区民ひろばの在り方を検討すべく、議論を開始した。社会環境の変化なども踏まえ、地域のニーズや特徴を踏まえた区民ひろばの新たな運営方法を検討するため、近隣住民や地域の特徴などのデータを活用した施設運営を目指し、本プロジェクトを開始した。

本プロジェクトでは、地域住民のウェルビーイングに関するデータや施設の利用状況などのデータを取得するとともに、地域の特徴的な施設等の情報を組み合わせることで、地域住民や利用者の QOL を向上させる区民ひろばの新たな運営方法を導き、区民ひろばを中心とした地域活性化を目指し、令和 6 から 7 年度において以下の内容について実施・検証を行った。

- ・施設利用における利便性の向上とデジタルサービス利用者の拡大
- ・地域特徴を踏まえた運営改善による施設価値向上
- ・地域住民の主観的なウェルビーイングに関するデータの活用可能性
- ・施設利用者に関するデータ活用による施設の民間活用の可能性

本報告書は、地域特徴に関するデータを活用した公共施設である区民ひろばの運営改善策の検討手法の確立を通じた、地域の活性化を目指し、豊島区が抱える課題や解決に向けた取組、開発したサービス等、事業全体について報告するものである。

## 1. はじめに

### 1.1 本事業の背景と目的

豊島区は、かつて東京 23 区で唯一「消滅可能性都市」との指摘を受け、これを機に様々な取組を実施してきた。1999 年度は、区として借入金残高が 872 億円を抱えるなど、財政面での大きな課題を抱え、また、同時期の人口は約 25 万人程度と減少の一途にあった。そのような中で、公共施設の統合などの財政改善策を講じることで、近年は人口も増加し、財政状況も改善し、2024 年に人口戦略会議が発表した報告書では、消滅可能性都市から脱却している。

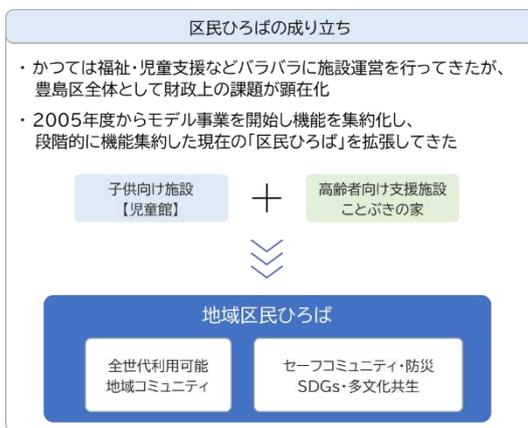
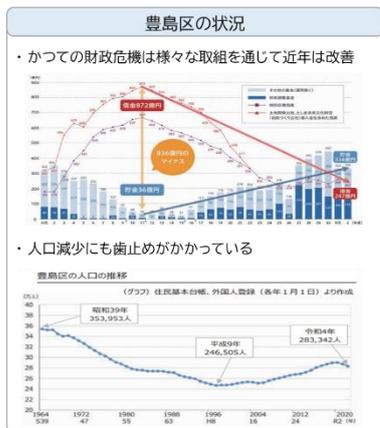
区民ひろばは、このような財政課題を抱える中、別々の施設として運営されていた主に高齢者向けの支援施設である「ことぶきの家」と子供向けの児童館を統合し、全世代が利用可能な地域コミュニティの拠点として一体的に運営することで機能強化を目指し、運営が開始された。

設立の経緯から、現在、区民ひろばは、豊島区の小学校区である 22 地区に 26 の施設を設置し、運営している。区民ひろばは、施設に応じて、業務委託により地域住民によって設立された NPO 法人によって運営が行われるなど、地域活動支援の母体となっており、高齢者の健康活動支援や子育て支援など、地域における社会福祉の増進に向けた取組を進めている。

しかしながら、設立から一定期間が経過し、利用者が高齢者や児童に集中し、中間層の利用が低迷するなど、世代間の交流を通じた地域コミュニティの活性化を目指す中で課題を抱えている。また、運営手法においても、紙媒体等によるアナログ式の利用申請処理が行われ、利用者の実態が正確に把握できず、また、事務処理・運営管理においても利便性や効率性の観点から課題が生じている。

このような背景から、コロナ禍を経て、時代に即した在り方を検討する必要があることから、豊島区において 2023 年度に「地域区民ひろばあり方検討委員会」を設置し、区民ひろばの運営の新たな在り方を検討すべく議論を開始した。当該検討委員会においては、地域の特徴を踏まえた施設運営やデジタル活用による運営方式の改善などを目指すべきとの方向性が示された。

そのため、本プロジェクトでは、地域の特徴や地域住民のニーズを踏まえた、地域性に合った施設運営を行うことを通じた地域活性化を目指し、デジタル導入やデータ利活用による区民ひろばの運営の在り方改善を行うことを目的とする。



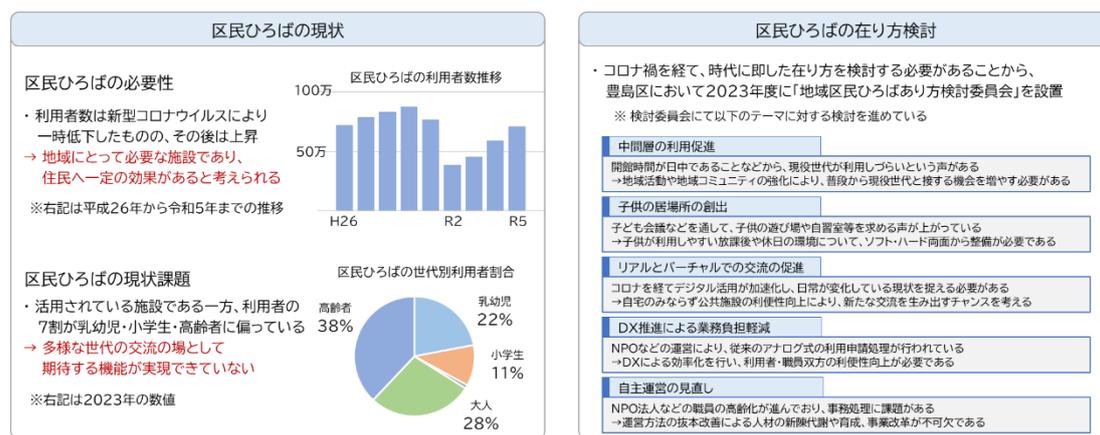
## 1.2 エリアの課題

区民ひろばは、地域コミュニティの拠点として、豊島区内の小中学校区ごとに設置しており、2020年から生じた新型コロナウイルスによる影響で一時的な利用者の減少は見られたものの、2023年度には年間延べ約71万人が利用しており、住民への一定の役割を果たしている。他方で、利用者は高齢者や乳幼児を連れた親子の利用が7割程度と偏りがあり、多様な世代の交流の場として期待する機能が十分に実現できていない状況にある。

2020年から生じた新型コロナウイルスによる社会環境の変化を踏まえ、時代に即した施設運営の在り方を検討すべく、2023年度には「地域区民ひろば在り方検討委員会」を設置し、議論を行ってきた。検討委員会では、中間層の利用促進や子どもの居場所の創出、リアルとバーチャルでの交流の促進、DX推進による業務負荷の軽減、自主運営の見直しなどの課題が挙げられた。

豊島区は、池袋や大塚などの繁華街を有する商業エリアや池袋本町や要町、雑司ヶ谷など

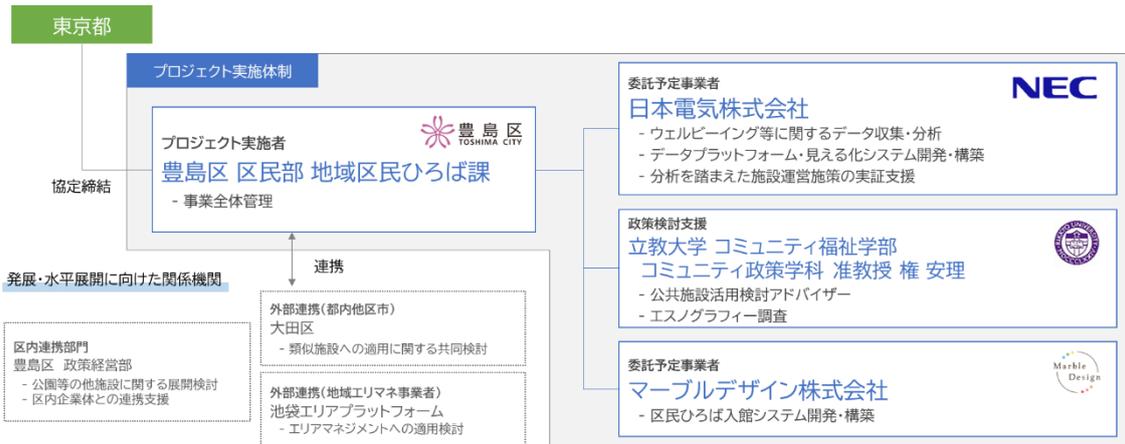
の住宅地域など、狭いエリアに様々な特徴を持った自治体であるが、区民ひろばは設置の背景や経緯から、画一的な事業運営が行われており、また、アナログ方式による施設運営からどのような年齢・性別の利用者がいつ利用しているか、どの程度の頻度で利用しているかなどの情報を得ることができず、地域の特徴に合わせた運営を行うための検討に必要な情報そのものの取得ができていない状況にあった。



### 1.3 実施体制

本事業は東京都との協定の下、豊島区が主体となり事業を実施した。地域の特徴に関するデータの取得・分析、取得データを活用したプラットフォームの構築などについては日本電気株式会社、また、区民ひろばの入館状況の把握に向けたデジタルシステムの導入については株式会社マーブル・デザインが実施した。加えて、地域コミュニティの活性化に向けた助言を得るために、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科の権准教授に参画いただき、立教大学の学生の協力も得つつ、地域活性化に向けたデータ取得や具体的な手法の検討に尽力いただいた。

都市データの活用に向けては、都内他区市での類似施設への適用に向けた共同検討として大田区や池袋におけるエリアマネジメントを行う池袋エリアプラットフォームの運営事務局であるサンシャインシティと情報共有を行うことで、本プロジェクトを通じて得た手法の水平展開に向けた体制を構築した。加えて、豊島区内においても公園など、同様に課題を抱える部局とも情報連携を行い、区内でのデータ活用をさらに発展させることを目指した連携体制を構築した。



## 2. 目指す姿

### 2.1 エリアが目指す未来

区民ひろばは、豊島区における住民福祉の向上に寄与する重要な施設であり、福祉等の基盤事業を中心としつつ、地域ごとの特徴を踏まえ、特色あるエリアに合わせた施設運営を行うことで、住民の生活の質の向上を支える施設を目指している。

豊島区には、池袋や大塚のような様々な人々が来訪し、にぎわいや文化創造による交流があふれるエリアや、池袋本町や要町などの子育てニーズや住民の多様性に特色のあるエリアなどがあり、地域の特性や地域住民のウェルビーイングに関する考え方などを把握することにより、公共性と地域性を両立したデータ活用による施設運営を通じて、地域ごとに特色を持つ区民ひろばを生み出し、地域力の向上・地域活性化を推進していく。

- 福祉のまちづくりを目指した旗艦施設を中心とし  
豊島区内のエリアごとに、データに基づく当該エリアの特色を分析
- 特色に合わせた施設運営への改善を行うことで  
公共性と地域性を両立した官民連携による取組を通じた都民のQOLの向上を目指す

**SDGsやグリーンな街づくりに特色のあるエリア**

緑地や公園などが多いグリーン豊かな立地を活用し  
親子世代がいそいそと過ごし、自然を通じた学びの提供

データからみる地域特性

- 子育て世帯
- 公園・緑地
- 自然とのウェルビーイング
- こどもの学習機会が少ない



**子育てニーズや住民多様性に特色のあるエリア**

地域とのゆるやかなつながりによる、共助の暮らし  
日々のコミュニティ活動と新たな刺激

データからみる地域特性

- 高齢者
- まちへの愛着
- 健康への意識
- つながり
- 暮らしの安全
- 趣味の集まり



**にぎわいと文化創造による交流あふれるエリア**

新たなものを受け入れる寛容性の高い文化を活かし  
アートや文化を通じたさまざまなひととの交流

データからみる地域特性

- 地域活動
- アートへの関心
- 多様性と寛容性
- 若者
- 民間事業者が多い

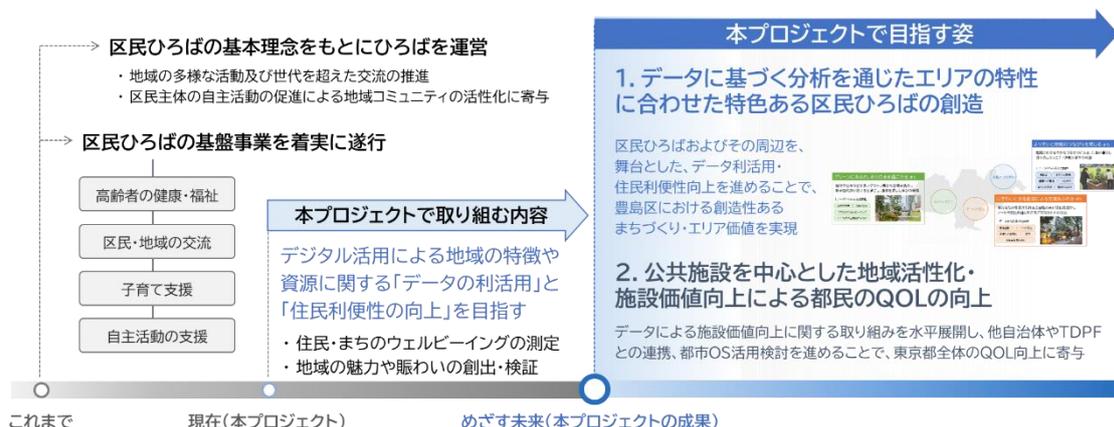


## 2.2 ロードマップ

これまで区民ひろばでは、区民ひろばの設置の基本理念に基づき地域の多様な活動や世代を超えた交流の促進、地域住民主体の活動を促進することで地域コミュニティの活性化に寄与するよう、基盤事業を着実に実施し、運営を行ってきた。

本プロジェクトでは、デジタルを活用することで地域の特徴や資源に関するデータの利活用を行うとともに、デジタル技術の活用による住民・施設運営における利便性の向上を目指した取組を実施するものである。これらの取組を通じて、エリアが目指す将来像である、エリア特性に合わせた特色のある区民ひろばの創造に向けた基盤の構築を目指すものである。

また、得られたデータについては、都市データ連携基盤や東京都におけるデータプラットフォームとの連携を通じた、他のエリアなどへの活用を通じた発展・水平展開を目指し、データ整備を開始した。

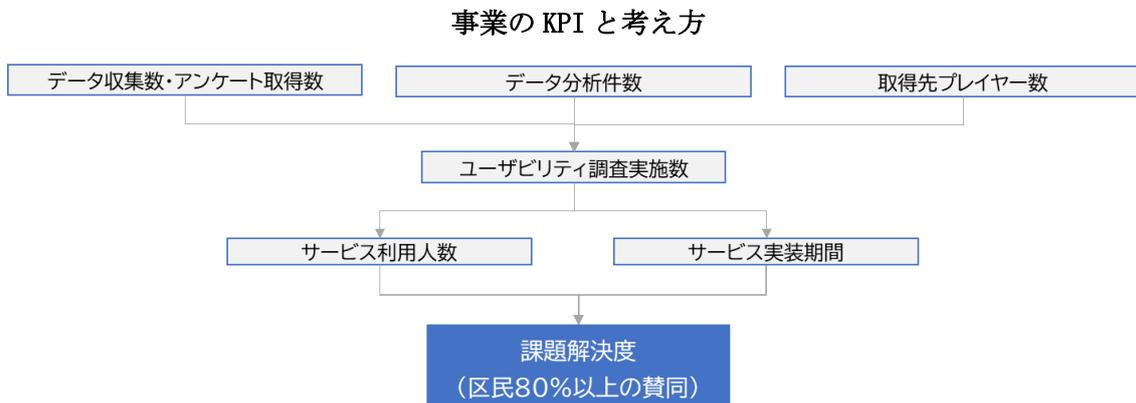


### 2.3 KPI

事業初年度の令和6年度は、特色ある区民ひろばの検討に必要なとなる、地域の特徴や住民のウェルビーイングに関するデータの収集を行うことを中心にKPIを設定した。また、区民ひろばの利用者の属性や利用状況を把握することが次年度以降の検討材料に必要であったことから、区民ひろばの入館システムの構築を行い、当該システムのUI・UXについて施設運営者によるユーザビリティ調査を実施することなどをKPIとして設定した。これらのKPIを設定することで、次年度以降の区民ひろばの在り方検討に必要なデータソースを得ることができた。

2年度目である令和7年度は、構築された入館システムと令和6年度に取得した住民のウェルビーイング等に関するデータを統合したデータプラットフォームの完成に向けたデータ取得数等のKPIを設定した。また、入館システムやデータプラットフォームのサービス実施期間を設定するとともに、入館システムのサービス利用人数をKPIとして設定し、導入サービスの利用状況を把握・検証することとした。

これらのKPIはそれぞれ関連し、様々なデータの取得を行い、検証に必要な基礎的なデータの基盤を構築するとともに、導入するデジタル技術のユーザビリティを調査することで最適なシステムを構築・導入、さらに、導入したシステム利用状況のモニタリングを実施する。その上で、区民ひろばの将来像を検証し、実証を通じて、区民の区民ひろばに対する満足度を測定することで、データ利活用による運営改善の効果を測定することとした。



## 2024年度の定量評価指標

評価項目	目標値	設定根拠	
		目標値の考え方	目標値算出の計算式
サービス実装に向けたデータ分析件数《件》	4	既存統計や住民ウェルビーイング等に関する分析	①既存の人口統計、②区民意識調査、③住民ウェルビーイング調査、④施設周辺のエスノグラフィー調査
収集されたデータの種別数《件》	26	26件のデータの収集	収集データの一覧は次ページ参照
取得先のプレイヤー数《社》	5	3社の連携先からデータ収集	①区民ひろば利用者、②区民全体、③来街者、④勤務者、⑤豊島区
区民ひろば周辺における幸福度等に関するアンケート取得件数《件》	2,000	2,000件のアンケート取得	区民ひろば利用者登録者約2万人のうち10%からのアンケート回答を目指す
ユーザビリティ調査実施者数《人》	15	導入予定のシステムについて、15人に実施	区民ひろばの見える化システム：施設運営職員等の5人
【母数】施設運営に関わる職員30人			入館システム：施設運営職員等の10人

## 2025年度の定量評価指標

評価項目	目標値	設定根拠	
		目標値の考え方	目標値算出の計算式
サービスの実装期間《日》	211	見える化システム及び入館システムを2025年8月末までに実装	2025年9月1日～3月31日までサービス実装期間
収集されたデータの種別数《件》	3	2024年度データに加え、新たに3件のデータの収集	収集データの一覧は次ページ参照
取得先のプレイヤー数《社》	1	2024年度取得先に加え、新たに1社からデータ収集	①区民ひろば運営者
実装サービスによる課題解決度	80	新たな施設の在り方に対して80%以上の賛同を得る	現在区民ひろばを利用していない層を含めて運営改善に関するアンケートを実施
サービス利用者《人》	23万	サービス利用者23万人	高齢者・乳幼児等で未登録者を想定し、母数の50%を目標と設定
【母数】実装期間の利用者約47万人（想定）			

### 3. 本事業の位置づけ

#### 3.1 エリア全体の取組の中での位置づけ

##### (1) 豊島区基本構想・基本計画の策定

豊島区は、将来の地域像を描き、区政運営の方向性を示す最上位の計画として、令和7年度に基本構想（令和7年度～16年度までの10年間）及び、それを具体化する基本計画（令和7年度～11年度の5年間）を策定した。これらは、区民生活の質を向上させ、持続可能な都市づくりを進めるための共通指針として位置づけられている。

基本構想では、未来に向けたまちの姿や理念が示され、区民、企業・団体など幅広い主体との協働のもと、豊島区の“ありたい姿”が描かれている。基本計画は、それを実現するための施策の方向性を整理し、7つのまちづくりの方向性に沿って体系的に構成されている。

7つの方向性は以下の通り：

1. 地域と共に支えあう安全・安心なまち
2. 子育てしやすく、子ども・若者が自分らしく成長できるまち
3. 生涯にわたり健康で、地域で共に暮らせる福祉のまち
4. 豊かな心と活発な交流を育む多彩な文化のまち
5. 活気とにぎわいを生み出す産業と観光のまち
6. 共につくる地球にも人にもやさしいまち
7. 誰もが居心地の良い歩きたくなるまち

これらの方向性は、区内の安全・福祉・文化・産業・環境・生活基盤など多岐にわたる分野を総合的に捉え、誰もが安心して暮らせるまちづくりを展望している。

基本構想・基本計画の策定プロセスには、区民ワークショップや未来としまミーティング、説明会・パブリックコメント等、多様な意見の聴取が反映されており、区民参加型の計画づくりが進められた。

これらの計画は、各事業の基本的な根拠となるのみならず、年度ごとの予算編成・実施計画・評価にも反映されている。基本計画の実行状況は年次でフォローされ、持続可能な行財政運営と合わせて、地域ニーズに応じた施策展開が進められている。

##### (2) 総合計画における本プロジェクトの位置づけ

基本構想は、将来にわたって持続可能で、多様な人々が安心して暮らし続けられる都市を目指し、区政運営の最上位計画として定めている。基本構想では、「誰もがいつでも主役」「みんながつながる」「出会いと笑顔が咲きほこる、憧れのまち」という理念を掲げ、年齢、性別、国籍、障害の有無などを問わず、すべての人が地域の担い手として関わり合いながら暮らせるまちの実現を目指している。

この基本構想を具体的な施策として展開するために策定されているのが、豊島区基本計

画である。基本計画では、福祉、子育て、文化、産業、環境、都市基盤など、分野横断的な視点から区政の方向性が整理されており、「地域と共に支え合う」「人と人のつながりを育む」「地域資源を活かした魅力の創出」といった考え方が、全体を貫く共通の軸として位置づけられている。

こうした総合計画において、区民ひろばは、単なる公共施設の一つではなく、地域コミュニティの基盤となる拠点として重要な役割を担う存在として位置づけられている。区民ひろばは、子どもから高齢者まで、誰もが利用できる身近な居場所であり、世代や立場を超えた交流を生み出すことで、地域のつながりを支える「地域のハブ」としての機能が期待されている。また、防災や見守り、地域活動の支援など、日常と非常時の双方において地域を支える拠点としても重要な役割を果たしている。

一方で、社会環境の変化や人口構成の変化、ライフスタイルの多様化により、地域コミュニティの在り方そのものも変化してきている。従来の画一的な運営や、利用者層が限定されがちな施設運営だけでは、総合計画が目指す「誰もが主役となるまち」「多様な主体がつながるまち」を実現することは難しくなっている。このような背景から、区民ひろばについても、地域ごとの特性や住民ニーズを踏まえた柔軟な運営への転換が求められている。

豊島区では、こうした課題意識のもと、「地域区民ひろば在り方検討委員会」を進め、区民ひろばを地域ごとの特徴に応じて進化させていく方向性を示してきた。その中で重視されているのが、エビデンスに基づく施設運営と、地域住民の主観的な価値や幸福感（ウェルビーイング）を踏まえた施策展開である。

本事業は、この総合計画及び区民ひろばの在り方検討における方向性を具体的に実装する取組として位置づけられる。地域の人口構成や利用状況といった客観的データに加え、住民のウェルビーイングに関する主観的データを収集・可視化し、区民ひろばの運営改善に活用することで、地域ごとの特性に応じた取組を検討・実証することを目的としている。

また、本事業は、単に区民ひろば単体の改善にとどまるものではなく、総合計画が掲げる「協働」「つながり」「地域力の向上」を具体的な形で推進する実践の場としての役割も担っている。区民ひろばを起点に、住民、大学、民間事業者、行政がデータを共有し、対話を重ねながら新たな取組を生み出すプロセスは、今後の豊島区におけるまちづくりのモデルとなることが期待される。

このように、本事業は、豊島区総合計画において示されている将来像を、地域レベル・施設レベルで具体化するための先導的な取組であり、区民ひろばを「利用する場所」から「地域の未来を共につくる場所」へと進化させるための重要な位置づけを持つものである。

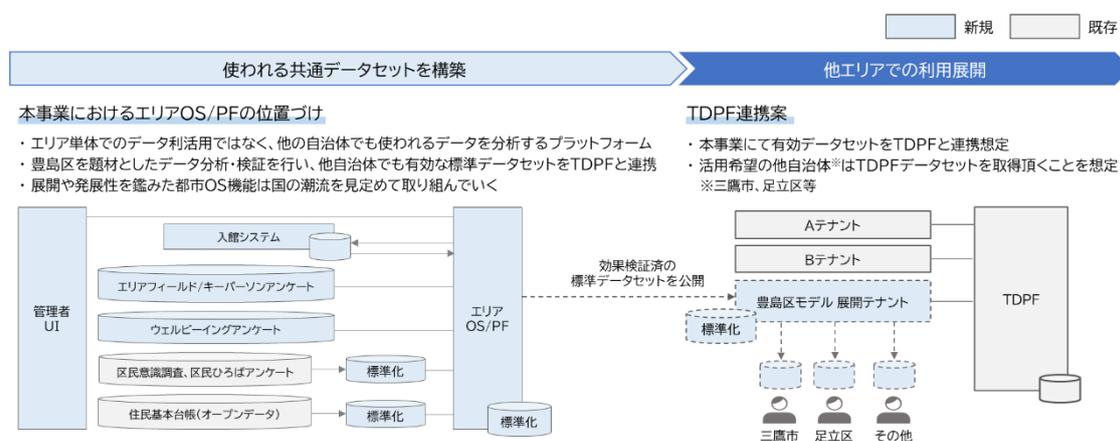
### 3.2 サービス・技術の位置づけ

区民ひろばは、地域住民の福祉向上に向けた行政が運営する公共施設であり、公共施設の

在り方をデータ利活用により改善させるために必要な情報を整備するためのデータプラットフォームを構築することから、豊島区がデータプラットフォームの運営主体となることとして事業を開始した。

また、本事業を通じて得られた住民のウェルビーイングに関する特性などのデータは民間事業者によるエリア開発や地域のまちづくりにおいても利活用が想定される。行政においても、区民ひろば以外の公園等の公共施設においても同様に地域ニーズや住民特性などのデータを活用した施設の統廃合や最適な管理手法の検討などにも活用することが期待される。

このことから、データ利活用が行政内外で促進されるようデータをダッシュボードとして整備し、外部公開できるよう Microsoft Power BI を利用し整備することとした。



## 4. 取組内容

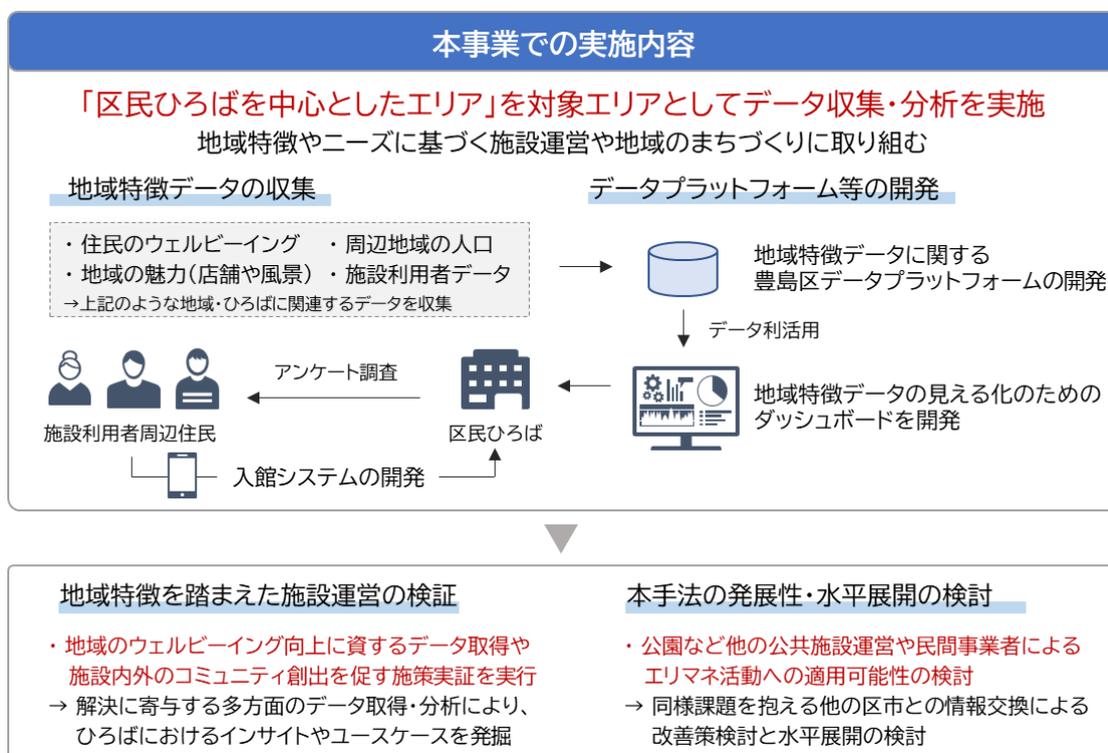
### 4.1 取組内容の詳細

豊島区内の 22 地区 26 施設ある区民ひろばを中心とした地域活性化に向け、地域の特性に合わせた運営の在り方を検討するため、地域の特色を把握するために必要な情報の収集、収集したデータの可視化、データを踏まえた新たな取組方法の検証、さらに区民ひろばの利用者・運営事業者の利便性の向上などを目的として、取組を実施した。

具体的には、人口分布などの統計等による基礎データの収集を行うとともに、区民の地域愛着に関する意識調査などのデータ、また、区民のウェルビーイングや居住地域に対する印象などに関する主観データの収集を実施した。また、一部の区民ひろばを対象として、区民ひろば周辺の地域の特色あるスポットや街の雰囲気に関するエスノグラフィー調査を実施することとした。

また、区民ひろばの利用状況について、従来は詳細な利用者データが収集できていなかったことから、デジタル技術を活用した入退館システムを開発・導入し、これら入退館に関する情報をウェルビーイング等に関する主観的なデータと組み合わせた見える化システムを構築した。

これらのデータを活用し、データと実際の区民ひろばの運営事業者等との意見交換を通じて、一部の区民ひろばにおいて、データ分析を踏まえた新たな運営の方向性を踏まえた実証を行い、データ利活用による効果の検証を行った。



(1) 統計等の基礎データ及び区民のウェルビーイングに関するデータの収集

豊島区内の区民ひろばを中心とするエリアの分析を行うため、令和6年度事業において、豊島区人口統計を活用し、地域別・性別・年齢別の人口データを集約した。また、あわせて令和5年度に豊島区が実施した「協働のまちづくりに関する区民意識調査」から、居住地に対する継続居住の意向や地域への愛着、地域への誇りに関するデータを抽出し、基礎データとして整備した。

統計等の基礎データ概要

地域	町丁目	年齢	合計	男	女	日本人合計	日本人男	日本人女	外国人合計	外国人男	外国人女
駒込	駒込1丁目	0~4	142	76	66	132	67	65	10	9	1
駒込	駒込1丁目	5~9	123	69	54	122	69	53	1	0	1
駒込	駒込1丁目	10~14	74	41	33	72	40	32	2	1	1
駒込	駒込1丁目	15~19	97	48	49	90	37	43	17	11	6
駒込	駒込1丁目	20~24	315	153	162	187	85	102	128	68	60
駒込	駒込1丁目	25~29	478	224	254	327	158	169	151	66	85
駒込	駒込1丁目	30~34	397	212	185	315	168	147	82	44	38
駒込	駒込1丁目	35~39	384	170	211	341	158	183	43	15	28
駒込	駒込1丁目	40~44	323	156	167	300	144	156	29	12	11
駒込	駒込1丁目	45~49	350	165	185	333	157	176	17	8	9
駒込	駒込1丁目	50~54	318	134	184	297	124	173	21	10	11
駒込	駒込1丁目	55~59	298	140	158	286	136	150	12	4	8
駒込	駒込1丁目	60~64	206	99	107	197	96	101	9	3	6
駒込	駒込1丁目	65~69	184	77	107	170	73	97	14	4	10
駒込	駒込1丁目	70~74	179	78	100	174	77	97	4	1	3
駒込	駒込1丁目	75~79	217	85	132	215	85	130	2	0	2
駒込	駒込1丁目	80~84	132	48	84	131	47	84	1	1	0
駒込	駒込1丁目	85~89	96	32	64	94	32	62	2	0	2
駒込	駒込1丁目	90~94	64	17	47	62	17	45	2	0	2
駒込	駒込1丁目	95~99	14	2	12	14	2	12	0	0	0
駒込	駒込1丁目	100~	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駒込	駒込2丁目	0~4	35	21	14	34	20	14	1	1	0
駒込	駒込2丁目	5~9	23	15	8	31	14	17	2	1	1
駒込	駒込2丁目	10~14	22	12	10	21	12	9	1	0	1
駒込	駒込2丁目	15~19	38	24	14	29	21	8	9	3	6
駒込	駒込2丁目	20~24	113	57	56	89	50	39	24	7	17
駒込	駒込2丁目	25~29	184	86	98	153	71	82	31	15	16
駒込	駒込2丁目	30~34	140	67	73	117	67	50	55	10	55

協働のまちづくりに関する区民意識調査 調査票  
ID XXXXXXX

1. 住み心地  
問1 あなたにとって現在お住まいの地域の住み心地はどうか。(1つに○)  
1. 住み良い 2. どちらかといえば住み良い 3. どちらかといえば住みにくい 4. 住みにくい 5. わからない

問2 以前と比べて住み心地に変化はありますか。(1つに○)  
1. 以前より住み良くなった 2. 以前より住みにくくなった 3. 変わらない 4. わからない

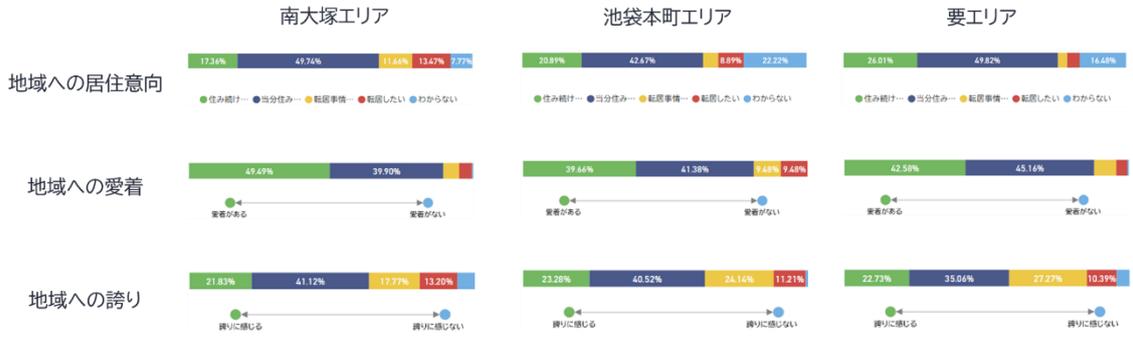
問2-1 住み良くなった。または、住みにくくなったと考えられる理由は何ですか。代表的なものについて1つお答えください。(自由回答)

2. 居住の経緯  
問3 あなたは生まれてからずっと豊島区にお住まいですか。(1つに○)  
1. ずっと住んでいる (一時的に豊島区を離れた人も含む) 2. 他の地域からきた

エリア別の人口分布



区民意識調査のエリア別分析結果



これらの既存の統計等のデータに加え、本事業では、地域の住民が「どういったことに幸福実感があるのか」、「どういった暮らしに関心があるか」などを調査することを通じて、区民に対する福祉サービスの拠点である区民ひろばの今後の運営方法の検討を進めるため、区民のウェルビーイングに関するアンケートを実施した。

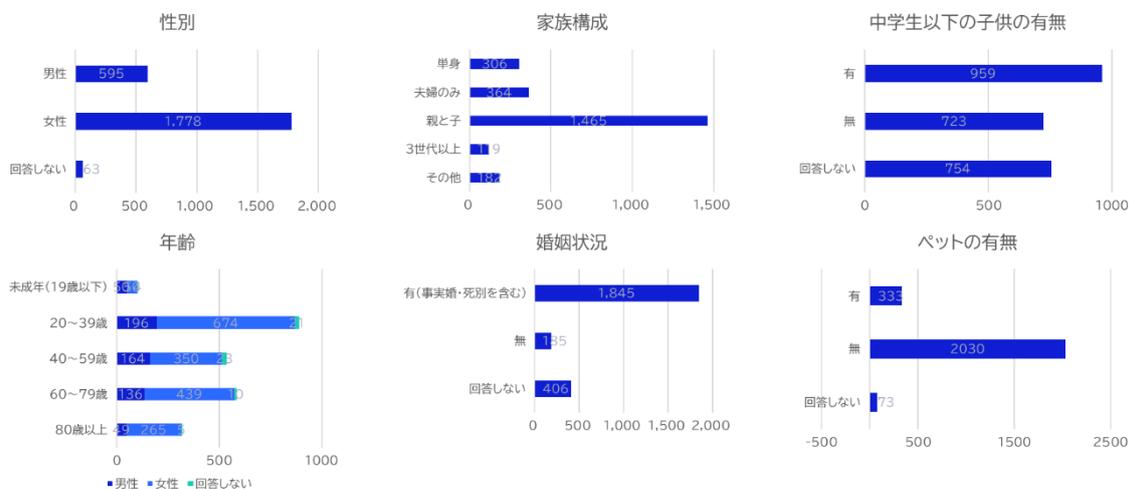
これまで行政ニーズの把握のための調査では、様々な要望が出てくるものの、真に住民にとって重要な要望の判断が困難であり、政策実施上の優先順位をつけることが困難であった。また、区民ひろばは近い施設だと、施設間の距離が500m程度と近い場所も存在しているものの、同時期に類似の企画・イベントを実施するなど、地域性や住民特性よりも公平性を主眼においた施設運営となっていた。このことから、住民の生活の質の向上に寄与する要因を分析する観点から、ウェルビーイングに関するアンケートを実施することとした。

アンケートは、令和7年1月15日から3月9日に実施し、豊島区のSNSや区広報誌での周知に加え、実施期間中のイベント等で依頼を行い、Web方式での実施とした。アンケート回答数は2,436件となった。

### ウェルビーイングに関するアンケート調査項目



### アンケート結果概要





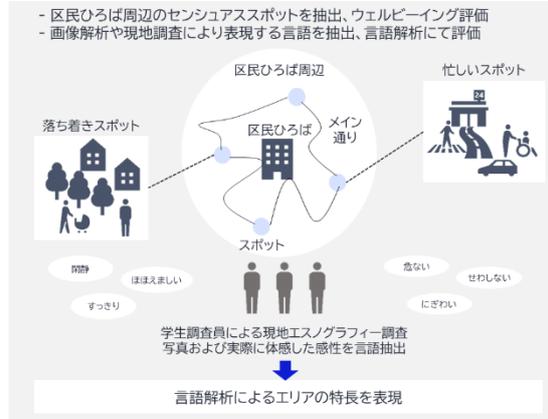
## エスノグラフィー調査の概要

### エスノグラフィー調査概要

- 調査内容
  - 区民ひろば周辺にある地域のスポット(公共空間やお店など)を調査し、地域を特徴づけるスポットを調査
  - 町を観察した際の気づきに関する音声データを元に、エリア内のウェルビーイングやセンシユアスを浮かび上がらせる
  - 各スポットの利用者属性や内在テーマもリサーチし、区民ひろばのテーマ設定に寄与
- リサーチ範囲
  - 区民ひろば3か所の周辺に点在するスポット・エリア
- 調査項目
  - スポット / 場を持つテーマ / センシユアス項目 / 属性 / 運営者 / コミュニティデザイン手法(空間/媒介物/ルール)
  - ヒトの傾向 / ウェルビーイングなシーン / コミュニティ形成につながるヒント / カルチャー・センシユアスな場



### 調査概要のイメージ



## 区民ひろば要で実施した調査の結果概要

施設周辺の特徴に関する分析	施設周辺の特徴的なスポットに関する調査	施設職員ヒアリング結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>2月27日に実施した際の音声分析による結果は上記のとおり。</li> <li>公園で遊ぶ人々や公園に対する印象、商店街と住宅街の雰囲気の違い、住宅が多いことに関する反応などが見られる。</li> <li>また、カフェや美術館などの施設に関する反応が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 千早フラワー公園                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 要エリアで最も大きい公園。広場が広く、遊具も多い</li> <li>- 親子や子供同士で遊ぶ姿や、高齢者が日向ぼっこ</li> <li>- 管理人が在中しており、安心感がある</li> <li>- 近隣公園と同様に住宅に隣接のため球技禁止</li> </ul> </li> <li>✓ 豊島区立熊谷守一美術館                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- カフェが併設された美術館</li> <li>- 近代的な建物で前を通るだけで楽しい</li> <li>- 若者世代やカップルのカフェ利用が見られた</li> </ul> </li> <li>✓ すずめが丘アトリエ村跡                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- アトリエ跡の看板のみが残る</li> <li>- かつての長崎アトリエ村の一部で、貸アトリエが広がっていた場所。今は個人工房が残っている模様。</li> <li>- 他にさくらが丘(マルテンソフ、つつしが丘アトリエ村が残る</li> </ul> </li> <li>✓ 健康ランド 未広湯                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 地域住民の憩いの場</li> <li>- サウナフォームもあり、地域内外の利用が多いと考えられる</li> </ul> </li> <li>✓ 藤香想(カフェ)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 要駅北側の住宅街の路地裏にあるカフェ</li> <li>- 住宅街の中に自然の庭が広がり、開かれた店舗が人々の交流を促している</li> <li>- 週一回程度の頻度で交流会などを実施している模様</li> </ul> </li> <li>✓ 長崎休日診療所                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 近くの区民ひろば長崎に併設する休日診療所</li> <li>- 街に対する安心感・住みやすさにつながる</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 区民ひろばに來訪する市民の特徴                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 高齢者の利用が多い</li> <li>- 中間層の利用は土日も含めて少ない</li> <li>- 高齢者、数名のグループが多い</li> </ul> </li> <li>✓ 区民ひろばの運営                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 運営協議会会長が構想を持ち込んで事業検討することがある。会長が消防団所属で、ひろば祭りで消防イベント実施</li> <li>- 町会や民生委員の方が来ることが多い</li> </ul> </li> <li>✓ 職員が感じる地域の特徴                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 高齢者の方は、ひろばでのイベントに参加して、商店街で買い物をして帰るケース、自転車移動している</li> <li>- 保育園隣りに少しひろばで遊ばせて帰る親子</li> <li>- 近くの銭湯は高齢者よりも中間層が多いイメージ</li> </ul> </li> <li>✓ 利用状況や課題感                     <ul style="list-style-type: none"> <li>- 土日運営、職員の働き方改革も課題</li> <li>- 子育て層の利用が多い。年度の切り替わりで保育が終わると来なくなる人、4月になって利用開始する人などの変化がある</li> <li>- 移住者がそれなりにいる。近所づきあいを求めている</li> </ul> </li> </ul> <p>【地域のキーパーソン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 運営協議会会長(運営協議会、学生服販売)</li> <li>✓ 地域の子どものために活動。区民ひろば職員とも交流が多く、施設運営を支援。消防団所属。</li> </ul>

### (3) 入館システムの開発及び導入

これまで区民ひろばでは、利用者は紙による入館証を区民ひろばの窓口へ提出、区民ひろばの職員がその枚数をカウントすることで、入館者数を集計しており、「どのような年代の方がいつ來訪したのか」や「週に何度も來訪しているのか、年に数回程度の來訪なのか」、「他の区民ひろばを利用しているのか」などの情報を把握することができなかった。また、紙による入館証の集計作業は職員が手作業でカウントしており、職員の手間が発生していた。このことから、正確な情報の把握と來訪者・職員の利便性の向上の観点から、デジタルによる入館システムを開発・導入した。

入館システムは、利用者である区民ごとに利用者登録を行った上で、QRコード付きのカードを発行し、区民ひろば利用時は受付に設置したタブレット端末に当該QRコードを読み取らせることで、利用状況を集計・把握できるよう構築した(詳細は後述)。

## 入館システムの設置の様子



### (4) 取得データの見える化のためのデータプラットフォームの構築

区民の人口分布などの統計等の基礎的なデータ、住民のウェルビーイングに関するアンケートデータ及び入館システムから得られる入館者情報を組み合わせ、区民ひろばの施設ごとの特徴・特色を分析し、これらデータの見える化のため、Microsoft Power BI を活用してデータプラットフォームを構築した。

Power BI の設計に際しては、利用する職員によるユーザビリティ調査を行い、デザインや使い勝手などの UI/UX の改善を行い、2 種類のダッシュボードを構築した（詳細は後述）。



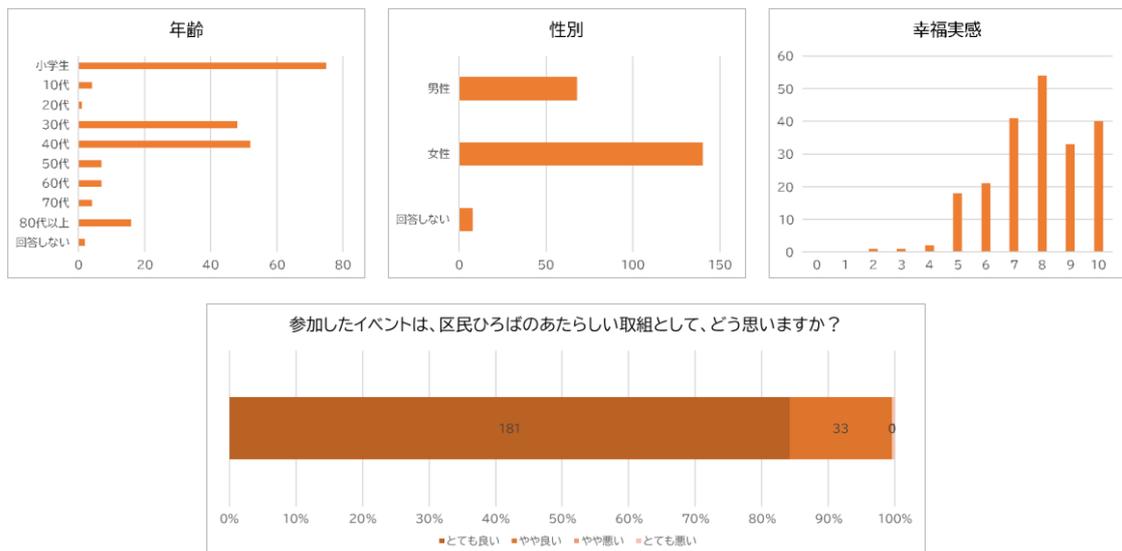
## データを踏まえた区民ひろば要の総合的な分析結果

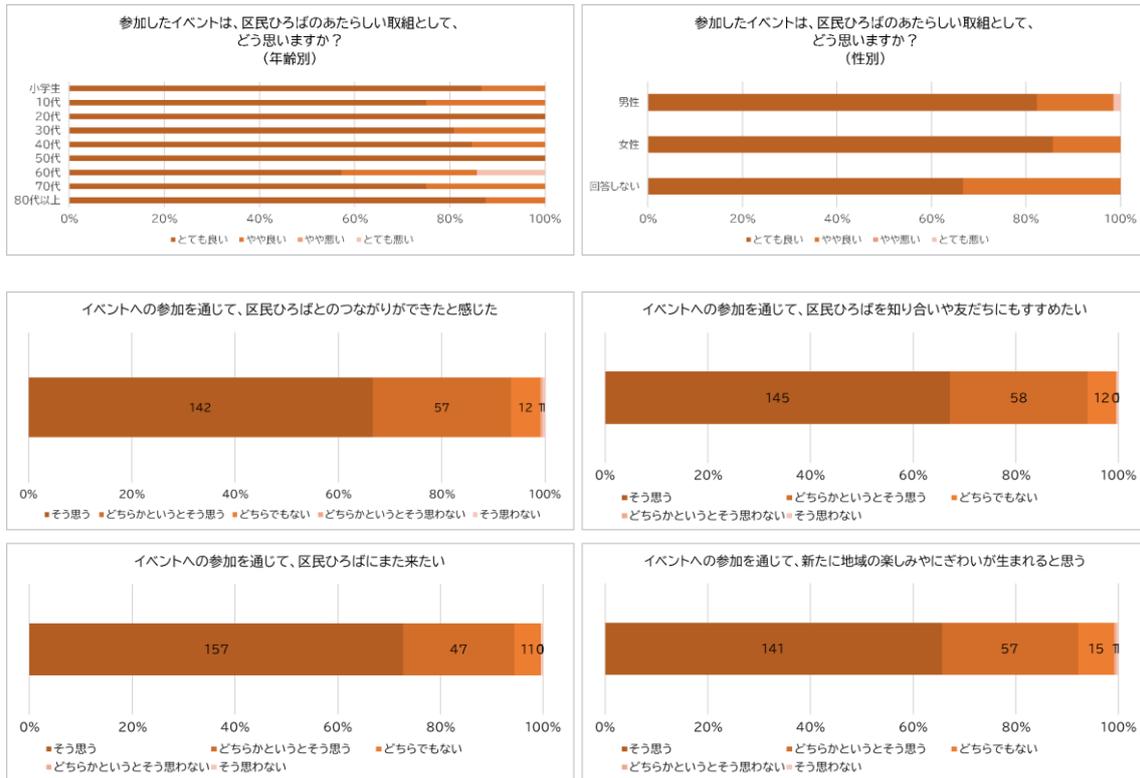
<p>利用者・周辺居住者の特徴</p>	<p>施設利用者は高齢者が多く、グループ率が高い。区民ひろば内外にコミュニティが一定存在しており、地域性が強い傾向がみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者は高齢者が多く、数名のグループで来られるケースが高い。中間層の利用は土日含めて少ない</li> <li>・ 利用者は趣味や学び、普段取り組んでいることへのやりがいや充実感を感じている傾向が高い。ひろば周辺の馴染みの飲食店などでコミュニケーションを取られる傾向があり、地域性が強い。将来の期待は多方面の声が出ており、利用意向が高い</li> <li>・ ひろば内外の知り合いが多いと回答した比率が高く、コミュニティが一定程度存在する</li> <li>・ 周辺居住者は生産年齢人口比率が高い。継続した居住意向が高く、地域への誇りがどちらでもない・低い層が多い</li> </ul>
<p>周辺エリアの特徴、印象</p>	<p>周辺エリアは居住地区であり、感性豊かに過ごすことのできるスポットや地域交流の場がいくつか存在する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住宅街にあり、狭い道や穏やかな通が多い</li> <li>・ 美術館やアトリエ、カフェなど感性豊かに生活を送れることのできるスポットが散見される</li> <li>・ カフェや健康ランドなど、世代ごとの地域交流の拠点となる場所を有しており、交流会も実施されている</li> <li>・ 軒先でのお茶会が実施されるなど昔ながらの地域付き合いが見られる中、地域付き合いのない移住者も一定数いる</li> </ul>
<p>施設利用者の幸せにつながる施策</p>	<p>施設利用者は世代間交流や地域イベントに対して前向きである一方、エリア居住者は地域や他者とのつながりを求めない傾向がみられる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区民ひろば要を利用する方は、世代間交流や文化・地域イベントを前向きにとらえ、生活の幸せにつながる傾向がある</li> <li>・ 他方、区民ひろば要エリアの方は「周りの人を喜ばせたい」指標が低く、地域や他者とのつながりを求める傾向が低い。また、世代間交流や文化・地域イベントを前向きにとらえる傾向が低く、生活の幸せに直結しにくい傾向がある</li> </ul>

実証では、区民ひろばの在り方に関する満足度等について、来訪者に対してアンケート調査を行った。その結果では、約84%の利用者から「とても良い」との回答が得られ、データ等に基づき検討した手法が、今後の区民ひろばの運営の在り方において一定の評価を得られたことが分かった。

また、実証を実施した大学生や地域事業者にとっても、区民ひろばで新たな取組を実施したことで、地域住民や区民ひろばとの繋がりが生まれ、今後も継続的に取組を進めたいといった前向きな意見が聞かれ、本手法による取組が区民ひろばを中心としたエリアの活性化に寄与する可能性が見られた。

## アンケート結果概要





## (6) 区内他部署への展開、他区市・エリアマネジメント事業者との意見交換

地域住民のウェルビーイング等に関するデータプラットフォームは、他の公共施設等の運営方式の検討に関しても活用可能性があることから、豊島区内の公園管理を行う部署等に対して、当該データプラットフォームの利活用方法に関する情報共有や研修等を実施し、今後のデータ利活用の可能性に関して意見交換を行った。その際には、継続的なデータの更新やデータプラットフォームを使いこなすためには継続的な研修を希望するといった意見があったことから、今後もデータ利活用の事例の蓄積や周知、職員向けの研修などに取り組んでいく方針である。

また、都内の他区役所と意見交換を行い、当該区が行っている都市の再開発における利活用や公共施設運営上の課題に関して情報共有を行い、引き続き豊島区での運用状況等を踏まえて意見交換を継続することとしている。

さらに、池袋でエリアマネジメントを行う民間企業に対して、取組の状況について共有を行い、民間事業者によるデータの利活用の可能性について意見交換を行った。民間事業者によるエリアマネジメントでは人流等のデータを集約しているが、居住者の属性やコミュニティの状況などを組み合わせることで、エリア開発に活用できるのではないかと、いった意見が聞かれた。

## 4.2 実装サービスの詳細

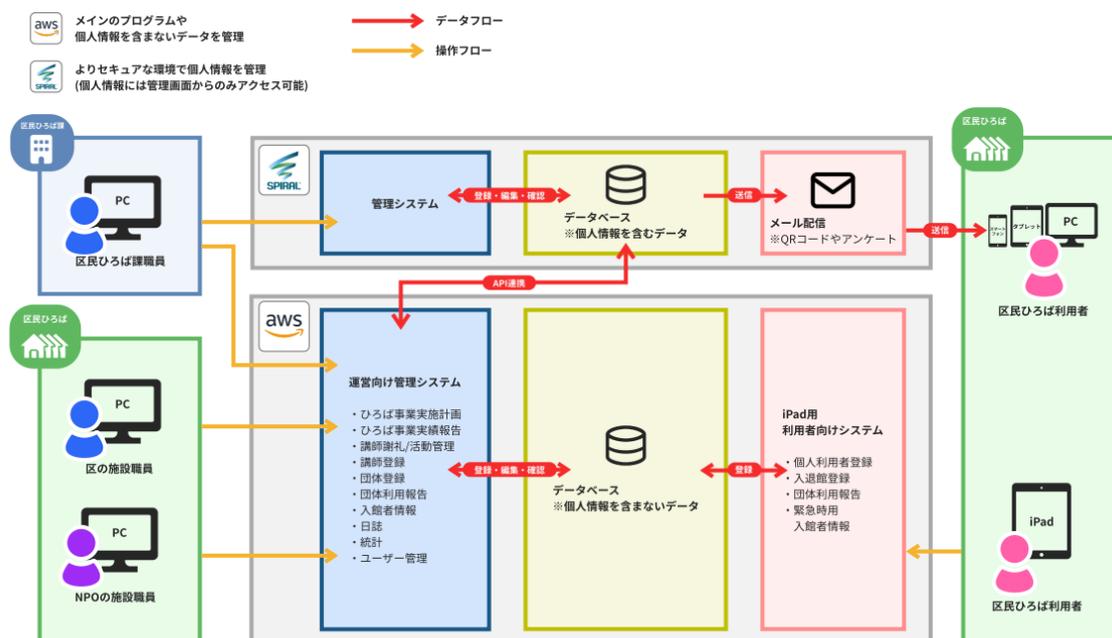
### (1) 区民ひろばの入館システム

区民ひろばの利用者の状況を正確に把握するとともに、運営・管理の効率化を進めるため、すべての区民ひろばにおいて入館システムを構築・導入した。各区民ひろばでは、手作業による利用者数の集計を行い、紙やExcelを利用していましたが、これらの作業に係る負担を軽減し、利用者状況をリアルタイムで取得・閲覧することが可能となるようシステムを構築した。

システムの構築にあたっては、登録者に関する個人情報等の管理を適切に行うため、スパイラル社の「SPIRAL」とデータベースとして「AWS」によって制作した。これらのシステムを通じて得られた入館状況に関するデータは、豊島区職員がWeb上で閲覧できる管理画面から参照することができるようになっている。

また、施設を利用する区民ごとに利用者登録を行い、QRコード付きのカードを発行している。これによって、利用者は入館時に複雑な手続きを行う必要がない、区民ひろばの受付に設置したタブレット端末でQRコードを読み取らせるだけで利用が可能な仕組みとしており、現在では、子供から高齢者までスムーズな利用が行われている。

システム概要図



## 管理画面

氏名 (漢字)	氏名 (かな)	住所(〒)住所名	性別	登録年月日	性別	電話番号	緊急連絡先 氏名 (漢字)	緊急連絡先 氏名 (かな)	緊急連絡先 電話番号	緊急連絡先 性別	印
山田マコト	やまだまこと	福岡	男性	2012年02月20日			山田マコト	やまだまこと	0901458017	父	
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1979年03月10日			田中さくら	たなかさくら			999999
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1979年03月10日			田中さくら	たなかさくら			999998
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	2011年03月10日			田中さくら	たなかさくら			999994
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	2013年03月10日			田中さくら	たなかさくら			999993
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1985年03月10日			田中さくら	たなかさくら			999991
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	2014年03月10日		0907596813					997589
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1990年03月10日							93096
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1987年03月10日							914503
田中さくら	たなかさくら	福岡	女性	1975年03月10日							77770

## (2) 地域住民のウェルビーイング等に関するデータプラットフォーム

統計等の基礎データ及び区民のウェルビーイングに関するデータに加え、入館システムから得られる区民ひろばの利用者に関する情報を集約し、区民ひろばの施設運営の在り方検討に活用可能なものとしてデータの見える化を行うとともに、データプラットフォームとして継続的なデータ利用を行うため、Microsoft Power BI を活用して、データベースを構築した。

Power BI は、区民の地域に対する愛着等に関する区民意識調査のデータや人口分布、また、ウェルビーイングに関するアンケートの結果について、区民ひろばや地域単位で分析することが可能な「利用者傾向」に関するダッシュボードと、区民ひろばごとの入館データと人口分布に関する統計データを組み合わせて表示する「利用者状況」に関するダッシュボードの2画面を構築した。

入館情報に関するデータは前述の入館システムと API によりデータ連携し、月単位で区民ひろばの入館状況に関するデータを取得することで施設ごとに曜日別や月別、時間帯別での利用状況に加え、他の区民ひろばでの登録者の来場状況やリピート利用の状況が見える化した。これにより、区民のウェルビーイングの状況や施設の利用状況を踏まえた、データを利用した新たな取組の検討の土台となる情報を容易に参照できるよう、環境を整備した。

### 4.3 取組の工夫

区民ひろばの現在の主な利用者層は高齢者が多く、デジタル技術の導入に際しては、誰もが使いやすいシステムやUI とする必要があった。各区民ひろばに設置する入館システムについては、当初検討ではグループ利用などの状況を把握する観点から複数の画面を表示させる段階的な入館登録を想定していたが、利用者の利便性等を考慮し、入館と退館のボタンのみを表示させるシンプルな表示とすることとした。得られるデータの種類は減少するものの、現場の区民ひろば職員の意見や実際の利用者の状況を考慮し、シンプルなシステムとすることで、高齢者から子供まで誰もがスムーズに利用することができており、入館システムを利用した入館登録は特段の問題や反対意見もなく、利用されている。

区民ひろばの抱える課題である世代を超えた利用を促進し、利用者の生活の質を向上させるための区民のウェルビーイングデータの把握に際しては、アンケートによりデータ収集を行った。アンケートは属性等の項目も含め 70 問程度と、ボリュームのあるアンケートであったが、高齢者や子どもから幅広く回答を得るため、区民ひろばにおいては現場の職員が積極的にアンケート依頼を行うとともに、回答者をサポートしながら回答を得よう丁寧な対応を行った。また、新たに区民ひろばを利用してもらえるよう、現在区民ひろばを利用していない層に対してもアンケートを実施するため、豊島区の広報誌での周知、サンシャインシティにおけるアンケート周知を行い、幅広く回答を募った。加えて、まちづくりや地域活性化に関する取組を紹介する情報誌である「Discover Japan」において、区民ひろばの在り方検討に関する取組が掲載され、区民のみならず取組の情報発信を行うなどの取組を実施した。これらの取組を並行して実施することで、当初の予定を上回る回答数を得ることができたと考えられる。

収集したデータは、それだけでは行政職員が容易に使うことが困難であり、これまでもアンケートなどを実施したとしても十分にそのデータを利用した施策検討が行えていなかった。そのため、ウェルビーイング等に関するデータを収集した結果については、容易に分析や在り方の検討が行うことができるよう、Power BI によるダッシュボードとして整備することとした。Power BI における UI の構築検討にあたっては、実際に利用する区民ひろばの職員に対して、データの種類や Power BI の利用方法のみならず、具体的にデータからどのような考え方で地域の特徴を読み解くかといった検討手法について、複数回の研修を実施した。これにより、データを活用した検討手法の定着を目指すとともに、Power BI の UI に対する改善点の把握などを行い、UI 構築のブラッシュアップを行った。これらの取組により、データ活用に慣れていない職員であってもデータに基づく検討ができるよう、持続的に使われるシステムとなるよう開発に取り組んだ。

## 5. 取組結果

### 5.1 都民が得られた効果

本事業の実施により、住民やワーカーなど「ヒト」に対しては、「施設利用における利便性・利用価値の向上」に寄与したと考える。具体的には以下の点が挙げられる。

#### (1) 施設利用における利便性の向上とデジタルサービス利用者の拡大

従前、区民ひろばでは、施設職員が紙媒体の入館証を手作業でカウントし、人数集計等を行っていたため、集計のミスや作業負荷が大きかったが、デジタルによる入館システムを導入したことで、利用状況の正確な把握が可能となり、また、業務負荷の軽減につながった。職員の人員不足が将来的にも想定されており、延べ約45万人（2026年2月16日時点）の施設利用がある中、日常的な業務負担となっていた利用者の集計作業をデジタル化したことで、管理負担が軽減され、利用者に対するサービスの充実に寄与している。

#### (2) 地域特徴を踏まえた運営改善による施設価値向上

地域住民のウェルビーイングに関するデータや居住者の人口、区民ひろばの利用状況などのデータを見える化したことで、これまでの施設運営のみでは把握できなかった地域のニーズを踏まえた新たな企画の実施検討が可能となった。地域の様々なデータを踏まえて検討した実証については、参加した都民から高い満足度を得られており、また、実証に参加した地域のステークホルダーも継続的な参画を希望するなど、双方にとって効果的であり、区民ひろばの施設価値の向上につながっており、本事業による取組は雑誌「Discover Japan」へ掲載された。



また、地域の企業や団体など「事業者」に対しては、「地域住民の特性データの共有による新たなまちづくり」を促進できたと考える。具体的には以下の点が挙げられる。

(1) 地域住民の主観的なウェルビーイングに関するデータの活用可能性

池袋のエリアプラットフォーム運営を行う事業者との意見交換では、新たな事業者の立地支援などを計画する際に、地域住民のウェルビーイングやコミュニティの状況、住民属性などのデータを活用することで、出店の促進などにつながるのではないかとといった意見が聞かれた。今後、開発したデータプラットフォームは広く公開することを検討しており、集約したデータのオープンにすることで、一層の官民のまちづくりによるデータ利活用が促進されるよう推進していく。

(2) 施設利用者に関するデータ活用による施設の民間活用の可能性

本事業においては、3か所の区民ひろばで実証を実施した。実証に際しては、データを踏まえて、大学やプロスポーツチーム等による新たな企画を実施し、検証を行ったことで、従来の行政を主体とした取組から発展することができた。今後、地域住民のウェルビーイング等に関するデータをオープンにすることで民間事業者による自発的な区民ひろばへの事業参画や、実証フィールドとして区民ひろばを活用するなど、本事業による成果を周知し区民ひろばの新たな価値を示すことによって、民間事業者による利活用を促進していく。

## 6. 横展開の可能性

### 6.1 マネタイズするために必要な要素

本事業を持続的なものとするためには、以下の点が重要と考える。

#### (1) データの継続的な取得・蓄積

地域の特性を得るために、本事業では豊島区民等を対象にウェルビーイング等に関するアンケートを実施し、2,436件の回答を得た。心身の健康や生きがいなどの個人が感じるウェルビーイングは変化するものであり、また、区民ひろば利用者が今後増加する場合も新たな利用者層のウェルビーイング等についても把握することが不可欠であることから、定期的にアンケート等を実施し、継続的なデータの取得・蓄積を図る必要がある。また、利用者の幸福実感の向上などの変化の状況を把握することで新たな区民ひろばの運営方法の効果検証が可能となるため、今後も定期的に区民ひろばや区のイベント等においてデータ収集を継続することが重要である。

#### (2) データを踏まえた区民ひろばの運営改善のサイクルの実現

本事業では、3施設においてウェルビーイング等のデータ活用に加え、エスノグラフィー調査を実施した上で地域関係者も含めたワークショップなどを通じた検討を行い、実証を実施した。これらの3施設以外の職員についても、今後、開発したデータプラットフォームを区民ひろばの職員等が自立的に使用し、新たな取組の企画立案が行うことできるよう研修を行ったが、研修ではデータ利活用には慣れが必要であり、各施設での情報交換などの実務レベルでは課題が聞かれている。

データを活用した運営改善方法の具体例を示しつつ、データプラットフォームの活用に関する研修などを継続的に実施することで、データ活用の効果を周知し、運営改善の好循環が生まれるサイクルを示すことで、継続的な取組を実現していくことが必要と考える。

#### (3) 他の施設・エリアへのサービス展開

地域住民のウェルビーイングの把握や住民の人口等のデータは区民ひろば以外の公園等の公共施設やまちづくりにおいても活用可能なデータであると考えられる。池袋のエリアプラットフォームを運営する事業者との意見交換においても新規立地事業者の誘致などに向けたデータ利活用などについての期待が聞かれ、また、他の自治体においても商店街等のまちづくりにおける活用などの可能性についての意見があった。

今後、取得したデータのオープン化を進め、行政のみならず民間利用者によるデータ活用を促進し、様々な場面での利用の実例を作ることで、更なるデータ利活用を進めることが重要である。

## 6.2 横展開できるエリアの特徴

本事業を横展開できるエリアの特徴としては、以下の点が考えられる。

### (1) 地域住民に対してサービスを提供する自治体・民間事業者に展開が可能

地域住民のニーズはその地域の特徴によって異なり、社会の課題や環境の変化に応じて適切なサービスを提供することが求められる。地方公共団体等の行政においては、住民の福祉の向上に向けて様々なサービスを提供しているが画一的な取組が過去から継続されていることが多く見られる。住民の生活の質を向上させ、地域の活性化を目指す自治体や、新たに民間事業者の誘致等を通じてまちづくりを行う商店街等の事業者は、今後の在り方や取組の方向性を検討する際に、今回収集したようなウェルビーイング等に関するデータを収集し、住民のニーズや考え方を把握した上で取り組むことは地域価値の向上に寄与するものであり、様々な自治体や民間事業者による活用が可能であると考えられる。

### (2) 近隣自治体

本事業において取得したデータは、主に豊島区の区民ひろばを利用する区民等を中心としたものであるが、地域住民の生活圏は居住する行政区に限定されるものではない。区民ひろばは豊島区民に限らず利用することができる施設として運営しており、入館システムなどの仕組みは近隣の自治体とも共通のサービスとして様々な施設に導入され、利用状況などのデータが共通基盤として自治体間で共有されることで、住民の生活圏を意識した広域でサービス提供を行うことが可能となると考えられる。都民の生活の質の向上に向けては、これらのデータ共通化を行うことを通じて、自治体間での役割分担の検討や連携などに活用することが可能と考えられる。

## 7. 今後の予定

本事業において、住民のウェルビーイング等のデータを収集し、区民ひろばの在り方について3施設を対象とした実証を行い、住民の満足度向上に一定の効果が得られた。また、区民ひろばの利用状況についてもデジタルによる入館システムを構築・導入することで、施設運営における業務負担の軽減効果があったことから、デジタル技術の導入・活用の価値を確認できている。今回の実証対象以外の区民ひろばの職員等に対するデータ利活用研修を実施しており、今後は実証した3施設以外においてもデータを活用した在り方検討を行うことで、都民に対して新たな価値を提供し、生活の質の向上に向けた施設の運営改善に取り組んでいく。

また、構築したデータプラットフォームについては、今後、豊島区職員以外にも利用することが可能となるよう、データの外部公開を進めることを予定している。豊島区では、区内に立地する民間事業者等との協働を進めるための「チームとしま」という連携の場があることから、これらの機会を活用した事例の周知やデータ活用に関するアイデア募集などを行うことで、豊島区内の民間事業者による利活用を促進することを考えている。また、近隣自治体に対して取組事例の共有などを行うことで、自治体間連携などに取り組んでいく。

住民の福祉に貢献し、生活の質の向上させるため、本事業では「人」に注目してデータ利活用による区民ひろばを中心とした地域活性化に取り組んだ。地域に暮らす人がどのような考え方を持っているかをデータにより把握し、データを踏まえて関係者で対話を行うことで、データとリアルを基にした新たな地域の姿を見出していくことが重要かつ効果的である。今後も継続的に取り組むことで、豊島区基本構想に掲げる「誰もがいつでも主役」、「みんながつながる」、「出会いと笑顔が咲きほこる、憧れのまち」の実現を目指していく。